



『名古屋セントラル病院』ニュース 秋

脳神経外科 竹林主任医長が ベストドクターズ 2020-2021に選出されました

◆ ベストドクターズ とは？

米国ベストドクターズ社（日本での代理店：(株)法研）の実施する医師間の相互評価調査において選出された医師です。日本では毎年、約6,500人が認定されています。

◆ 調査・選出方法は？

調査は継続的に実施され、前回の調査でベストドクターに選出された医師が、自身の専門分野や関連分野における他の医師について、「もし自分自身や家族の治療を自分以外の医師に委ねるなら誰に委ねるか」という観点から推薦・評価を行った結果、多くの医師から支持された医師が選出されます。



お知らせ

病診連携医専用の インターネット予約システムについて

当院では引き続き、インターネット予約システム【カルナコネクト】を利用した診療予約をお奨めしています。操作はとて簡単で、先生方の負担軽減に繋がりますので、ご興味のある方は、お伺いしてご説明することもできます。是非お問合せください。

利用メリット

- ◇ **24時間365日予約可能**
- ◇ **夕方診療中でも翌日の診療予約が可能**です！
- ◇ 診療科はもちろん、各科医師を指定して予約が取れます。（一部診療科を除く）
- ◇ お手持ちのインターネット端末でご利用いただけます。
- ◇ 予約システムのご利用にあたり料金はかかりません。
- ◇ 電話が繋がらない等のストレスなく、診療中に患者さんのご都合と予約状況を確認しながらその場で予約がとれます

【問合せ先】 地域・法人連携室 TEL：052-452-3196

《今回の各科紹介》

『内視鏡のすすめ』	消化器内科	川島靖浩副院長	2ページ
『低侵襲による診療』	泌尿器科	黒松 功科長	3ページ

消化器内科『内視鏡検査のすすめ』

副院長 川島 靖浩

多くの一般の方は、『何の症状もなく健康だから、内視鏡検査なんて必要ない』と考えています。しかし、胃がんや大腸がん、ほとんどの癌は早期の段階では無症状であり、癌が発生していても気づかないまま数年が経過し、かなり進行した状況で初めて症状が出て、医療機関を受診することになります。今回は、がんを少しでも早く発見するために、“内視鏡のすすめ”と題してお話します。

I. 胃がんについて

胃癌の99%はピロリ菌感染に関連して発生します。ピロリ菌は、幼小児期(およそ5歳頃まで)に感染し、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌の発生を引き起こします。ピロリ菌を除菌することで、胃がんの発症率を下げることは出来ます。また、20歳前後までに除菌すれば、胃がんはほとんど発症しないと考えられています。日本消化器病学会では、まず、胃カメラ検査で胃がんの有無、胃炎の状況を確認し、その後にピロリ菌感染の検査を推奨しています。もし、ピロリ菌陽性と判定されたら、早めの除菌治療を勧めます。また、胃カメラ検査の間隔は、ピロリ菌感染のある方(除菌後の方も含みます)は1~2年に一度、ピロリ菌感染のない健康な胃であれば、胃がんの発生率は低いのですが、2~3年に一度の検査を勧めます。

II. 大腸がんについて

大腸がんのリスクは、食の欧米化や飲酒、喫煙が上がります。また、遺伝的な要因もあり、家族に大腸がんがある方は注意が必要です。男女とも増加傾向で、60歳以下の若い方は、胃がんより大腸がんの発生率が高くなっています。一般に大腸癌検診で施行されている便潜血検査では、進行癌の10%、早期癌の30~50%が陰性となります。検診で陰性だからといって、安心は出来ません。検診で陰性と判定されても、40才以上であれば、一度は大腸内視鏡検査を受け、異常がなければ、その後は3~4年間隔での再検査を勧めます。特に、急に便秘になった、もしくは便秘が悪化した方は要注意です。このような方には、早めの大腸検査をお勧めします。

III. 苦痛のない、楽な内視鏡検査のすすめ

当院では、“苦痛のない内視鏡検査”で、名古屋市内だけでなく、遠方からも多くの方々に受診していただいております。希望されれば、鎮静剤でほぼ眠った状況での検査も可能です。また、鎮静剤を使用しない場合でも、細く柔らかい最新型の高精細内視鏡による苦痛のない検査も可能です。検査を受ける方にとって最善の内視鏡検査を提供します。胃カメラや大腸内視鏡検査は苦しいもの、辛いものと思っている方も当科にご紹介下さい。胃がん、大腸がんのほとんどは早期発見で治療が期待できます。是非、症状のない段階で内視鏡検査をお勧めください。当院の理念である、『安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の内視鏡(医療)』で地域医療に貢献したいと考えております。今後とも先生方のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

医師紹介



川島靖浩副院長 安藤伸浩科長 中川貴之主任医長 吉村 透主任医長 神谷友康医長

泌尿器科『低侵襲による診療』

科長 黒松 功

名古屋セントラル病院泌尿器科では「低侵襲」をテーマとして日常診療を行っています。

泌尿器科で取り扱う疾患は多岐にわたりますが、当科でも良性腫瘍（前立腺肥大症）、悪性腫瘍（前立腺がん、膀胱がん、腎盂・尿管がんなど）、尿路結石を中心に「低侵襲」を追求しています。以下に代表的な疾患に対する当科の具体的な治療方針をお示しします。

*前立腺肥大症

前立腺疾患の中で最も多くみられる疾患で、内服薬での治療で効果が不十分な場合などに手術を考慮することとなります。当科では2005年より全国に先駆けて「PVP」というレーザー手術を開始し、これまでに2000名近くに施行しています。「PVP」は出血が少なく、尿道カテーテルが翌日抜去可能で、入院期間も2-3日という当時では画期的な手術で、当科の低侵襲手術のランドマークの手術です。「PVP」は現在では泌尿器科学会刊行の前立腺肥大症ガイドラインで推奨グレードAの手術となっており、当科ではホームページ上で「PVP」について詳細に解説し、手術動画や同意説明文書も閲覧可能です。



GreenLight XP コンソール

*尿路結石

時として痙攣発作を来す尿路結石に対して当科では迅速に対応しています。特に7mmを越えるような大きな結石では自然排石の確率が低いため、外科的治療が必要となります。当科では結石の大きさや形状、硬さなどを参考に「体外衝撃波結石破碎術（ESWL）」と「経尿道的レーザー破碎術（TUL）」の2つの治療を提供しています。具体的な治療内容についてはホームページ内にも記載されています。

GreenLight XPS (Moxy) ファイバー

©2019 Boston Scientific Corporation. All rights reserved

*悪性腫瘍

前立腺がん⇒PSA高値の場合、前立腺MRI、入院での前立腺生検を経て診断されますが、多くは根治治療が可能であり、当科では6-7cmほどの切開創で摘出するミニマム創前立腺全摘か照射マーカー留置下の強度変調放射線治療（IMRT）を選択していただいています。

膀胱がん ⇒肉眼的血尿で発見されることがほとんどですが、ご紹介いただいた当日に膀胱ファイバーを施行し、2週間以内には手術を施行可能です。経尿道的に内視鏡下で切除し、3日程度で退院可能です。術後も定期的に再発チェックを行います。

腎がん、腎盂・尿管がん⇒検診USや血尿などを契機に診断されます。当科では開腹手術を行うことはほとんどなく、腹腔鏡下で摘出しています。術後の入院期間も1週間以内であることが多いです。

名古屋セントラル病院泌尿器科では、どこよりも早く診断し、どこよりも丁寧に説明し、常に低侵襲にこだわりながら治療を行っています。泌尿器科に紹介すべきかどうか判断が難しい場合にもまずは当科までご紹介ください。



医師紹介

黒松功科長（中央）

山田泰司主任医長（左）

渡邊麻里医師（右）

Topics

新任・転任医師のご紹介



救急科

主任医長

たが しゅう

医療情報部主任医長兼任 多賀 収

コロナ禍のこの時代に、救急医療と病院経営改善の両立はあまりに難題ですが、ベターな解答を模索して行きたいと考えます。よろしくお願い申し上げます。

Event

次回病診連携勉強会についてのお知らせ

日時：令和2年12月15日（火）14：00～15：00

会場：名古屋セントラル病院2階 多目的ホール

講師：循環器内科 医師 泉本 真孝

テーマ：下肢閉塞性硬化症の治療について カリキュラムコード：74（高血圧症）

※現時点では開催の予定でありますが、引き続き中止となる場合もございます

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp URL:http://nagoya-central-hospital.com